

新しいスタイルで…

# 文化祭・ひろばまつり

開催  
しました

10月29日と30日の2日間、松原地区公民館で松原地区文化祭・福祉ひろばまつりが開催されました。当初は31日までの3日間の開催を予定していましたが、衆議院解散総選挙と重なってしまったため短縮の日程となりました。

作品展示を中心に構成し、ステージ発表は事前録画の上映という小規模での実施となりましたが、ご来場いただいた皆さんの楽しそうな表情を垣間見ることができ、喜びも一人です。

作品を出展いただいた皆様、ステージ発表にご出演いただいた各団体の皆様、並びに当日ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

ふれあいのまち




## 松原かわら版

世帯数 1,236 戸  
人口 2,984 人  
高齢化率(65歳以上) 28.4%  
(令和3年10月1日現在)



作品展示の様子はホームページから見る事ができます。当日来ることができなかつた方はこちらからご覧ください。




私は県外から松本へ移り住み40年程経ち、6年前に仕事をやめ、時間に余裕ができたので、あれば便利と思いつォークリフトの免許を取りおかげさまでフォークリフトを使用するアルバイトが見つかり、楽しく仕事をしていきます▼今楽しみにしている事が新聞の「ときめき、ひらめき、なぞ解き広場」です。これは私の張り合いで、ナンバークロス、漢字の足し算、間違い探し、数独など、毎日朝一番に新聞を開き、まず前日の問題の答え合わせをして一喜一憂しています▼特に数独などは山勘で数字を入れてもまず出来ません。どうも何かルールがあるように思い、最近ではなんとなくわかったようので答えが合うようになり、次の日の答え合わせが楽しくなりました▼これまで金曜日は休みでしたが、最近生活情報面で「金曜漢字チャレンジ」ができ、楽しみがまた増えました▼こうして一週間アルバイトをしながら、脳の衰えを少しでも予防する為に、新聞社からの挑戦を楽しみ続けている私です。

## かろり時計



みんなの  
絵画講座 「絵の見方—いい絵を自分を見つける方法とは?—」



講師の大竹さん。専門家の立場からのお話はとても勉強になりました。

10月22日(金)午前10時から12時半まで、松原地区公民館・大会議室で、絵画講座が開かれました。東御市梅野記念絵画館・館長の「大竹永明さん」を講師にお迎えし、20名ほどの熱心な聴衆をまえに、長い松本市美術館勤務等で蓄積された貴重な経験や豊富な知見をもとに、とてもエネルギーで情熱的なお話を沢山いただきました。

今日は、連続講座の一環としての第1回目。今春リニューアルされた長野県立信濃美術館の見学(第3回・最終回)での審美眼を養うための下準備という位置づけです。

今回のお話は、個別の作家や流派に限定した作画技法の特徴分析や、時代的な様式の解説といった、世間一般によくみられる絵画芸術の専門的な技法・技術論ではなく、むしろ、それらを理解する前提としての、鑑賞者側の態度・姿勢についての提言を主とするものでした。自分でも無意識に捉われている「色眼鏡」を取り外し、「思い込み」の心の曇りを拭い去り初期化してくれる—そうして初めて絵自体とまっすぐに向き合うことができる—、大切な指針をいただきました。

まずは、職業としての絵描きの実態についてのやや深刻なお話から。我々が思い描く華やかな絵画ワールドの印象とは異なり、画家の生涯はおおむね貧しく悲惨であったという。画家の描く絵は、それぞれに個性的ゆえに、一律に万人に理解されるものではない(絵は工業製品のような均一の品質をもたない。他に代替不能の一品物)。それゆえに、画業の成果は経済的富と直結しない。しかもまた運よく売れるようになって、むしろ量産を強いられ、結果として駄作が多くなる。比類なき天才の輝きは困窮と短命を促し、現世の享楽に甘んじる長寿は、却って画業の栄誉を減ぼしかねないことも多いと。

現在絶大な評価を得て「売れている作家」も、亡くなつたとたんに評価額が激しく下落するとか。美しかるべき名画の世界も、世俗にまみれた美術界の実態を知れば、その暗部の醜さがすさまじい。高尚な芸術ゆえの「裏面に渦巻く思惑や欲望」を冷静に消去したうえで、初めて絵画芸術の門前に立つこととなる。その世界に参入するためには、改めて自分自身の眼を磨くほかはない。

大竹さんは、「絵を見る審美眼」を鍛え豊かにするコツをつかむため「わたしの経験的方法論」と題して以下の3点を挙げる。①世情の評判や市場の金銭的価値はひとまず置いて、自分の好きな絵・画家を見つめる。②その画家の生涯をたどりつつ、彼が生きた時代状況ともすりあわせながら画業の変遷をたどってみる。③これをいろいろな画家(可能ならば20~30人くらい)の事例に広げて試みる。このようにして、たまたま愛玩した一つの絵画から始まって、さまざまな絵画情報を重ねあわせ多角的に見つめ返すことを通じて、次第に「絵を見る目」が養われる。こうして「絵の見方」が変化し、その絵が醸し出す固有の「匂い」や「色」の魔力の秘密を直感的に感受しうる鑑賞力が身についてゆくのだと。

(編集委員)

10/4,11, 18,25 ミニつぐらづくり講座

中山地区で活動する松本つぐら同好会の洞澤さんの指導のもと、かわいいミニつぐらを作りました。



▲一目一目大事に編んでいきます

10/10 市民体育大会



松原地区からは男子マレットゴルフに出場し、8位入賞の成績を収めました。おめでとうございます!

まつばらのできごと

10/30 時計台コンサート  
伊藤ひよりさん弾き語りコンサート



文化祭と同日開催で、シンガーソングライターとして活動する伊藤ひよりさんのコンサートが行われました。

◀伸びやかな歌声に聞き惚れました

11/3 収穫祭~秋~芋ようかんを作ろう!

公民館の裏の畑でサツマイモを収穫し、みんなで美味しい芋ようかんを作りました。



高級店のような仕上がりに...



▲サツマイモの皮むき頑張りました



▲たくさん採れたよ!